

はじめに

本書をご購入いただきましてありがとうございます。

私は2014年（平成26年）に、長年勤務していた会社を定年退職し、その後、2016年に「おとなの塾」というウェブサイトを (<https://otona-no-jyuku.com>) を開設いたしました。そこでは、今までに培った経験やノウハウをもとに、社会人に求められる力についてコンテンツを公開しています。

定年退職後の生活は人によってさまざまで、会社員として働き続ける人もいれば、私のようにそれとは別の道を歩む人もいます。私は定年退職後、自分がやってみたいこと、自分でできることなどをリストアップして、その中から、以前から興味があったウェブサイトの開設という選択肢を選びました。

これを実行するにあたり関連する書籍を探して読んでみましたが、今までに経験がない領域への挑戦はハードルが高く、用語の意味を調べるだけでも大変苦労しました。このような事態は事前に想定していましたが、自分に専門的な知識や経験がない分、余分に時間

を費やしてしまったようです。

苦勞の甲斐あつて、なんとかウェブサイトの公開にこぎ着けることができ、最後のデータをアップロードしたとき、安堵の気持ちと達成感が心に広がりました。また、ホームページの作成やウェブサイトの開設について初歩から学ぶこともでき、初心を取り戻せたことは価値ある体験であつたと感じています。

私が新社会人としてデビューしたのは1977年（昭和52年）です。入社には新卒ブランドを手にした安堵感もあつて、フレッシュな気持ちで臨むことができました。しかし、それもつかの間、すぐに現実に引き戻され、仕事の厳しさを知ることになりました。

私の期待が大きかつたのか、仕事に関する認識が甘かつたのかはわかりませんが、実際の仕事は想像以上に厳しいものでした。なお、あとから気づいたことですが、私がこの仕事に向いていなかったことも、厳しさを感じた原因のひとつになっていたようです。

新入社員研修では、会社員としての心得、製品の基礎知識などを学び、グループディスカッションによる自己啓発を体験しました。そして、現場に配属されてからは、先輩社員から仕事の「いろは」をたたき込まれました。当時は、「仕事で鍛えられながら一人前にな

る」という風潮が色濃く残っていて、先輩社員の仕事を見て、それをまねして仕事を覚え、先輩社員や上司から叱責されながらノウハウを蓄積しました。

なお、ノウハウをていねいに教えてくれる先輩社員は少数で、上司からは「先輩のよいところを盗め」とよくいわれました。また、「一人前になるには時間がかかる」というのが当時の常識だったようで、成長に関しては時間的な猶予が与えられました。現代と比べれば、新社会人には恵まれた環境であったと感じます。

現代では新社会人を取り巻く環境も大きく変わりました。マニュアルも整備され、新入社員はそれにしたがって教育され、作業を身につけるといのが、受け入れ時の一般的なスタイルになっています。しかし、残念ながら時間的なゆとりは失われ、新社会人には厳しい環境になったといわざるを得ません。

このような環境で働く社会人には、基礎的な力が重要な鍵になると考えます。即戦力が求められることから専門的な知識や技能に頼りがちですが、これらの知識や技能は、基礎的な力がしっかり身につけていなければ発揮できないということも、理解しておかなければいけません。たとえば、組織の一員として働く人にとって、職場の同僚や上司、他の部

門や取引先で働く人たちとの良好な関係は大変重要で、このような関係が築けなければ仕事の遂行はうまくいきません。

私は、社会人に求められる基礎的な力は過去も、現代もあまり変化していないと考えています。このような認識のもと、本書では、新社会人が問題や課題に直面したときの対応、自分自身の見つけ方、将来のビジョンの描き方、ビジョンを実現するための手法やスキルなどについて記述を設けています。

本書の内容についてみなさんのご理解がどの程度得られるかわかりませんが、「自分の力を発揮したい」「将来のビジョンを描きたい」など、意欲を持って取り組まれている方には、共感していただけるものと思っています。

社会人が問題や課題に直面するのはめずらしいことではありません。新社会人のみなさんもこのような事態に臆することなく、自分の力を信じて、積極的にチャレンジしてみたいかがでしょう。